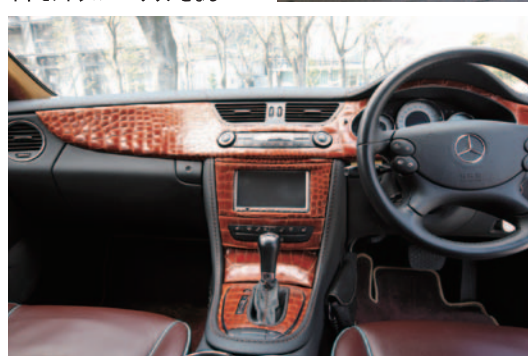


既製品には表現できない、上質なインテリアアートぶりで知られるイズ・ミー。今回は遊びゴコロたっぷりの質の高いコーディネートでCLSの内装を華麗に彩っているのがポイントだ。聞けば、昨今は時代感を反映してか、ごくごく無難なカラー・マテリアルによる装飾を望まれるケースが多く、表現者としてもてるクリエイティブを発揮する場がなかったとか。そのフラストレーションを発散するかのように、この一台には注目すべきアレンジの数々が盛り込まれており、4ドアクーペというアバンギャルドなコンセプトが与えられたCLSの性格を、よりクッキリと浮かび上がらせているのだ。

この斬新な内装演出を構想するにあたり、参考にしたのは欧州のアパレル系ブランドが提案するバッグなど。ステッチやパイピングなどにビビッドな色を用いる最旬の手法を基に、イズ・ミー自慢のイタリア製型押し本草のブラウンレザー×淡いパステルブルーのパイピングで、シートやドア内張りなどを装飾。シート背面のポケット部にも同じメイクを施しつつ実用性を高めている点はさすがといえる。また、シートをはじめ各部に施されたキルティング加工は、部位ごとにダイヤの面積を変更して強弱をつけた。その結果、インテリア全体に動的イメージがもたらされており、エキゾチックな魅力をも獲得することに成功している。

で、エキゾチックといえば、クロコダイルレザーが奢られたインストルメントパネル。鮮やかなオレンジ系に染色された鱈皮はその体型上、使えない部分も多くロスが出がち。だが、イズ・ミーはCLSのインパネを覆うにあたって、高価な素材を惜しげもなく注ぎ込んで完全メイクを敢行。ロス部分も含めて、じつにまるまる一頭分が使用されているとか。もちろん、その効能はすこぶる高く、外側からでも人目を惹くほどの強いアイキャッチ効果を誇っているほどだ。内装メイクにおける出し惜しみは、即クオリティ低下に繋がる。分厚いノウハウをもつ同店ならではの果敢なメイクといえる。

ちなみに、エクステリアも内装にふさわしい演出が見て取れる。エアロキットはイズ・ミーのオリジナル製品となり、ホイールも専売サイズとなるBBS製REの19インチ。リム幅は前後それぞれ8.5、10インチとなるCLSにジャストなモデルだ。まだまだ語るべきポイントは多いのだが、イズ・ミーのコーディネートはどうにも情報量が多すぎてこの分量では書ききれない。一言。遊び心とは、時に恐ろしい高みに登り詰めるようだ。



内装のみならず外装にも力が入れられており、エアロはイズ・ミー製オリジナル、ホイールも専売サイズとなるBBS・REの8.5×19、10×19インチ。カラーはダイヤモンドシルバークリアとなる

まるごと一頭分のクロコダイルレザーが惜しげもなく投入された独創のインパネ。高級感はもちろん、クーペだからこぞ欲しいアバンギャルドな風味が最大限に引き出されている

CLS350

CUSTOMIZE
取材協力=イズミー ☎03-3468-6501
http://www.isme.co.jp/
TEXT BY SATOSHI HORIGUCHI
PHOTOGRAPHS BY HIROYUKI AZUMA

SPEC
エクステリア
スタイリングキット(フロントスポイラー、
サイドスカート、リアスポイラー)…¥260,400
サイドフェンダーダクト…¥189,000
タイヤ&ホイール
BBS RE @8.5×19+25…¥117,000
@10×19+25…¥126,000
インテリア
内張り/天井インパネ張り替え

フロントのみならず、リアシートもしっかりとコーディネートされており、トータルでは当然ながらも抜群。仕様はフロントに準じるが、一体型となる分だけ施工は難しいのだ



独創的な
レザーカスタマイズで
唯一無二な
CLSを
体現した

往年のAMGモデルを彷彿とさせるホワイトメーター。タコメーターパネルにはイズ・ミーのロゴも刻まれるなど、ワンオフメイドならではのメイクが息づく。上質感が増した印象



ビジュアル訴求にはいまやマストといえるモニタもメイク。違和感のないレザーの張り方をはじめ、ヘッドレストと一体感を図るなど作り込みはどこまでも質高いのである



張り替えレザーなどでは省略化されるか、今回のCLSではポケットを装着。実用性を考えれば、やはり欲しいところであり、イズ・ミーは抜かりなくメイク。仕様はシート同様に



シートよりもダイヤ面積を細かく施工することで動きある内装を創出。キルティング風アレンジにもまだまだ可能性を感じさせてくれた。パイピングは純正位置に応用



バンブキン色のアルカンターラでルーフやピラー部をカバーしてリッチな風味を訴求。また、天張り中央部にCL600風のラインを連ねせるなど、純正装飾に根ざしたアイデアも



純正の縫製部分に被せるように山状のステッチを施すことで、張り替えなくともカラーコーディネートすることが可能。アイデアが光るだけでなく、コストパフォーマンスも豊か



シートにはもはや定番デザインとなりつつあるキルティング加工を施す。アパレル系ブランド最旬の装いを彷彿とさせるパステルブルーのパイピングがカジュアルながらも高品位

